

看護学概論

水田 克子

1 目的

看護師としての倫理的な判断をするための基本的能力を養いつつ、地域で暮らす人・人間のライフサイクルにおける健康の意義、保健・医療・福祉における看護師の機能・役割を学ぶ。

2 目標

- 1) 看護の概念を理解する。
- 2) 看護の歴史的変遷を把握し、現在の看護の諸問題を考えることができる。
- 3) 保健医療福祉チームと看護チームの機能と役割を理解する。
- 4) 看護における倫理について考え、自分の意見を述べることができる。

3 単位数・時間数・時期 1単位・30時間 1年次前期

4 授業計画

回	学習内容	授業形態
1	看護への誘い フローレンス・ナイチンゲール	講義
2	看護の概念 看護の成り立ち	講義
3	看護の概念 看護の定義	講義
4	看護の対象 こころとからだ 成長・発達	講義
5	看護の対象 成長・発達	講義
6	看護の対象 「暮らし」を理解する	講義・グループワーク
7	看護の対象 看護の対象	講義
8	看護の提供者 職業としての看護 養成制度と就業状況	講義
9	看護の提供者 教育とキャリア開発	講義
10	看護の提供のしくみ サービスとサービス提供の場	講義
11	看護の提供のしくみ 看護をめぐる制度と政策	講義
12	職業倫理としての看護倫理	講義
13	看護と倫理 倫理的ジレンマ 「あなたならどうする」	グループワーク
14	看護と倫理 倫理的ジレンマ 「あなたならどうする」	グループワーク・発表
15	科目最終試験	筆記試験

5 評価

授業態度、課題等提出物、科目最終試験で総合的に評価する。

6 留意事項

主体的に学ぶ姿勢で、授業に参加すること。

7 テキスト

- 1) 系統看護学講座 基礎看護学 看護学概論 医学書院
- 2) 系統看護学講座 看護倫理 医学書院

成人期にある人の健康

中野 和美

1 目的

成人に生じやすい健康問題を学習することで、成人の全体像をつかむ。また成人の看護を行う上で有用な概念や理念を学習し、成人期における健康課題達成に向けた看護の役割について理解する。

2 目標

- 1) 成人期にある対象の特徴と健康問題を学び、成人の全体像を学ぶ。
- 2) 成人期にある対象の健康の保持増進の重要性を理解できる。
- 3) 成人の看護を行う上で有用な概念や理念を学習し、成人期における健康課題達成に向けた看護の役割について理解する。

3 単位数・時間数・時期

1 単位・30 時間 1 年次

4 授業計画

回	学習内容	授業形態
1	成人期にある人とは	講義
2	成人の特徴と発達課題	講義・演習
3	社会状況の変化と成人の生活	講義・演習
4	生活習慣に関連する健康障害	講義・演習
5	職業に関連する健康障害 ストレスに関する健康障害	講義・演習
6	成人の学習の特徴と看護 ・アンドラゴジーモデル・エンパワーメントモデル ・生活習慣改善への集団指導	講義 グループワーク
7		
8		
9		
10		
11	行動変容・症状マネジメント	講義・演習
12		
13	成人看護に有用な概念	講義・演習
14	ヘルスプロモーション・危機・病みの軌跡・セルフマネジメント・自己効力感	
15	科目最終試験	筆記試験

5 評価

グループワークへの取り組み、課題等提出物、科目最終試験で総合的に評価する。

6 留意事項

- 1) 主体的に学ぶ姿勢で、授業に参加する。
- 2) グループワークでは積極的に意見交換する。

7 テキスト

- 1) 系統看護学講座 成人看護学 [1] 成人看護学総論 (医学書院)
- 2) 国民衛生の動向 (厚生統計協会)

1 目的

医療事故の構造と組織的な安全管理体制について理解し、安全な看護を提供するための事故防止対策と事故発生時の対応についての基礎的能力を養う。

2 目標

- 1) 医療事故発生メカニズムと、防止対策について理解する。
- 2) 医療現場における安全対策と事故発生後の対応について理解する。
- 3) 看護学生として実習中の状況に関連づけた分析と対応策を考える。

3 単位数・時間数・時期

1 単位・30 時間 3 年次

4 授業計画

回	学習内容		授業形態
1	看護と医療安全	医療安全をなぜ学ぶのか	講義
2	事故発生メカニズム	ヒューマンエラー、事故分析・事故対策	講義
3	安全文化の醸成	チーム医療・チーム STEPPS	講義
4	在宅看護の安全対策	在宅における事故と対応 看護業務上の危険と防止策	講義
5	具体的な事故防止対策	グループワーク①	演習
6		グループワーク②	
7		発表会	
8	危険予知トレーニング	KYT 演習・課題学習	講義・演習
9			
10	事故発生時の対応	事故発生時の対応 SBAR	講義
11	看護と法律 法的責任	医療事故の発生と法律、法的責任の種類 保健師助産師看護師法上の行政処分について	講義
12	看護師の法的責任を裁判 例から学ぶ	事例演習	演習
13		発表会	
14	科目最終試験	筆記試験	試験
15	まとめ	実習を終えて、今後の課題	演習

5 評価

授業態度、課題等提出物、科目最終試験で総合的に評価する。

6 留意事項

- 1) 主体的に学ぶ姿勢で、授業に参加すること。
- 2) 常に臨床の場面をイメージしながら主体的に課題学習に取り組むこと。

7 テキスト

- 1) ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全（メディカ出版）
- 2) 医療安全ワークブック（医学書院）
- 3) 裁判事例から読み解く看護師の法的責任（日本看護協会出版社）

終末期にある人の看護

中野 和美

1 目的

成人の終末期にある対象の特徴及び疾患に応じた看護を学び、看護実践に活かす知識を養う。

2 目標

- 1) 終末期にある患者の特徴及びその家族に対する看護を学ぶ。
- 2) 対象と家族のクオリティオブライフを実現する 看護について学ぶ。
- 3) 終末期にある対象の疾患に応じた看護を学ぶ。

3 単位数・時間数・時期

1 単位・30 時間 2 年次

4 授業計画

授業計画			授業形態
回	学習内容		授業形態
1	終末期とは	終末期看護の特徴	講義
2	呼吸機能障害のある対象	患者の特徴と看護の役割	講義
3	症状に対する看護	咳嗽・喀痰・血痰・胸痛・呼吸困難・喘鳴など	講義
4	検査・処置時の看護	酸素療法・気管内吸引・挿管・胸腔ドレナージ	講義・演習
5		人工呼吸器・呼吸リハビリテーション・各種検査	
6	酸素療法と看護	1) 事例設定 2) 酸素療法の学習 3) 演習：酸素療法・気管内吸引含む	講義・演習
7	事例演習		
8			
9	機能障害を持ちながら生活する人の看護	1) 肺がん	講義
10		2) 慢性閉塞性肺疾患(COPD)	
11		3) 気管支喘息 4) 薬物療法と看護	
12	【緩和ケア】 (緩和ケア認定看護師)	1. 緩和ケアにおける看護師の役割 2. 全人的苦痛を緩和するための包括的アセスメント 3. 身体的・精神的・社会的・スピリチュアルケア 4. 家族ケア 5. 臨死期の看護	講義
13			
14	日常生活支援 意思決定支援		講義
15	科目最終試験	筆記テスト	

5 評価

授業態度、レポート課題等提出物、科目最終試験で総合的に評価する。

6 留意事項

事前課題に取り組み、主体的に演習に参加すること。

7 テキスト

- 1) 系統看護学講座 系統看護学講座 別巻 緩和ケア (医学書院)
- 2) 系統看護学講座 成人看護学 [1] 総論 (医学書院)
- 3) 系統看護学講座 成人看護学 [2] 呼吸器 (医学書院)

看護研究の基礎

四宮 洋子

1 目的

看護研究の意義、方法論を理解し、看護研究に必要な基礎的知識を学ぶ

2 目標

- 1) 看護研究の意義について理解する。
- 2) 看護研究のプロセスを理解する。
- 3) 研究計画書を作成する。
- 4) 看護研究に関わる倫理的問題を理解する。
- 5) 研究結果を看護実践に活用する必要性が理解できる。

3 単位数・時間数・時期

1 単位・30 時間 2 年次

4 授業計画

回数	学習内容		授業形態
1	看護研究とは何か	看護研究とは	講義・課題
2	看護研究のプロセス	看護研究の意義 リサーチクエスションの重要性 研究のプロセス	講義・演習
3	研究方法	研究計画書とは 研究者に求められる倫理と倫理的配慮	講義
4	文献検索	文献検索方法について	講義・演習
5	論文クリティーク	論文クリティークとは データ収集方法①	講義
6	研究論文作成	データ収集方法② データ分析方法 研究論文の種類	講義
7	研究発表の方法	原著論文の構成要素 論文作成のポイント	講義
8	中間試験	試験終了後、看護研究の進め方説明	試験・講義
9	看護研究計画書作成	グループで研究計画書を作成、資料作り	グループ学習
10	看護研究	計画書をグループで発表	発表会
11	計画書発表会	発表会を、学生主体で運営	
12	看護研究論文作成	ケーススタディとは	講義 演習（個人ワーク）
13		個人で事例研究（ケーススタディ）作成	
14			
15	科目最終試験		試験

5 評価

授業態度、課題等提出物、科目最終試験で総合的に評価する。

6 留意事項

- 1) 主体的に学ぶ姿勢で、授業に参加すること。
- 2) グループワークに積極的に参加する。
- 3) 課題の提出期限を守る。

7 テキスト

- 1) 松本孚、森田夏実：看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 照林社
- 2) 看護研究 [系統看護学講座 別巻] 医学書院

1 目的

災害医療、災害看護に関する基礎的知識と技術を身につける。また、グローバルヘルスの課題を学び、国際的な視点で看護を捉えることができる能力を養う。

2 目標

- 1) 災害看護の特殊性と災害発生時の対応について理解する。
- 2) 災害サイクル各期に必要な災害看護の基礎的知識・技術を習得する。
- 3) 諸外国における保健・医療・福祉の課題を理解する。
- 4) 国際協力のしくみを理解し、国際看護の必要性について考える。

3 単位数・時間数・時期

1単位・30時間 3年次

4 授業計画

回	学習内容	授業形態
1	災害医療の実際 災害の種類と健康被害、災害医療の特徴と DMAT の活動の実際	講義（医師）
2	災害とは何か：災害看護の定義・種類 徳島の災害、災害対策 災害看護の展開①もし、学校が避難所になったら	講義・GW
3	災害看護の基礎知識	講義
4	災害看護の展開②その時 看護師は何ができる 災害による被害と疾患の特徴・災害サイクル各期の看護ケア	講義
5	災害看護の展開③被災者のこころのケア	講義
6	被災者特性に応じた災害看護 災害時の要配慮者対策・障害種別の特性に応じた防災対策	講義
7	災害看護に必要な技術	講義
8 9	災害看護に必要な技術（一次救命処置、包帯法等）	演習
10 11	災害訓練の実際（病院での災害訓練に参加）	訓練
12	世界の健康問題の現状～グローバルヘルスを考える～ 国際看護に関する基礎知識	講義
13 14	国際協力機関での活動をととしての看護活動 文化を考慮した看護について考える	部外講師
15	科目最終試験	筆記試験

5 評価

授業態度、課題等提出物、科目最終試験で総合的に評価する。

6 留意事項

- 1) 主体的に学ぶ姿勢で、授業に参加する。
- 2) 演習・訓練時には指定のあった服装および準備をして臨む。

7 テキスト

- 1) 系統看護学講座 看護の統合と実践[1] 災害看護学・国際看護学 医学書院

看護過程の基礎

四宮 洋子

1 目的

看護記録の意義と目的・看護過程の展開の基本を理解し、ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程のプロセスと看護診断が理解できる能力を養う。

2 目標

- 1) 看護過程の構成要素を理解する。
- 2) 看護過程の5段階の概念と活用方法を理解し、具体的展開方法を理解する。
- 3) 看護過程の思考技術の基本を理解する。
- 4) ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程のプロセスを理解する。
- 5) 看護診断・看護計画立案ができる。
- 6) 実施・評価の記録方法が理解する。

3 単位数・時間数・時期

1単位・30時間 1年次

4 授業計画

回	内 容	授業形態
1	看護過程とは、看護過程を展開する際に基盤となる考え方	講義
2	看護過程を理解・活用するために必要なスキル	講義
3	看護記録の必要性和管理・報告の必要性	講義
4	看護過程の展開① アセスメントの基礎知識	講義・演習
5	看護過程の展開② アセスメントの具体的な進め方	講義・演習
6	看護過程の展開③ 看護診断	講義・演習
7		
8	看護過程の展開④ 看護計画 ・計画の3つの種類・優先度の決定・問題リストの作成・成果の設定	講義・演習
9		
10	看護過程の展開⑤ 実施・評価	講義・演習
11	紙上事例演習 ○アセスメント ○看護診断 ○看護計画	講義・演習
12		
13		
14		
15	科目最終試験	筆記試験

5 評価

授業態度、課題等提出物、科目最終試験で総合的に評価する。

6 留意事項

- 1) 主体的に学ぶ姿勢で、授業に参加する。
- 2) グループワークに積極的に参加する。

7 テキスト

- 1) 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術〔2〕基礎看護技術Ⅰ, 医学書院
- 2) 事例で学ぶ看護過程 PART 1, 学研
- 3) ゴードンの機能の機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断, ヌーヴェルヒロカワ
- 4) NANDA-I 看護診断 定義と分類 2021-2023, 医学書院
- 5) エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図, 中央法規

診療の補助技術

作田 久美

1 目的

病原体の人体への侵入を防ぎ、看護師が実践する診療の補助に伴う基本的な技術について安全・安楽に実践できる能力を養う。

2 目標

- 1) 感染予防の意義・目的・方法を理解できる。
- 2) 薬物療法の原則と留意事項を正確に理解できる。
- 3) 創傷管理の基礎知識を理解できる。
- 4) 治療・検査時の対象心理、看護の役割を理解できる。
- 5) 採血法を理解でき、モデル人形を使用して安全に採血できる。

3 単位数・時間数・時期

1 単位・30 時間 1 年次前期～後期

4 授業計画

回	学習内容	授業形態
1	標準予防策と感染経路別予防策	講義
2	手指衛生・無菌操作について	講義
3	消毒・滅菌について	講義
4	感染性廃棄物の取り扱い、針刺し事故防止策について	講義
5	無菌操作・ガウンテクニック法・手指衛生 滅菌手袋装着	演習
6	与薬の基礎知識 (薬剤の種類と取り扱い、与薬における看護師の役割)	講義
7	与薬方法と効果の観察	講義
8	中心静脈カテーテル留置の介助 輸血管理・カテーテル関連血流感染対策	講義
9	皮下注射・筋肉内注射の実際	演習
10	静脈内注射の実際	演習
11	診察・検査時の看護師の役割、対象心理	講義
12	創傷の治癒過程・アセスメント、包帯法	講義
13	静脈血採血法について	講義
14	静脈血採血法の実際	演習
15	科目最終試験	筆記試験

5 評価

授業態度、課題等提出物、科目最終試験で総合的に評価する。

6 留意事項

- 1) 事前課題に取り組み、主体的に演習に参加すること。
- 2) どの技術項目も正確さを要求されるため、未熟な技術は事故につながる恐れがあることを留意し、演習に臨むこと。

7 テキスト

- 1) 系統看護学講座 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)
- 2) 写真でわかる 実習で使える看護技術アドバンス (インターメディカ)

1 目的

妊娠期・分娩期・産褥期における健康増進のための具体的な看護の方法を知り、看護技術の基本を身につける。

2 目標

- 1) 自然の営みとしての妊娠・出産を知る。
- 2) 妊婦・産婦・褥婦および、新生児のケアの基本を理解する。
- 3) 妊婦・産婦・褥婦および、新生児の基本的なケア技術が習得できる。

3 単位数・時間数・時期

1 単位・30 時間 2 年次

4 授業計画

回	学習内容	授業形態
1	妊娠初期におけるケア	講義
2	妊娠中期におけるケア	講義
3	妊娠中期におけるケア	講義
4	妊娠後期におけるケア	講義
5	事例を考える（妊娠期）	講義・グループワーク
6	分娩期のケア①	講義
7	分娩期のケア②	講義
8	事例を考える（分娩期）	講義・グループワーク
9	褥婦のケア①	講義
10	褥婦のケア②	講義
11	新生児のケア①	講義
12	新生児のケア②	講義
13	沐浴、レボルト触診法	校内演習
14	腹囲・子宮底の計測	
15	科目最終試験	筆記試験

5 評価

授業参加態度及びレポート、沐浴演習参加態度、筆記試験

6 留意事項

- 1) 主体的に学ぶ姿勢で、授業に参加すること。
- 2) 常に臨床の場面をイメージしながら主体的に課題学習に取り組むこと。

7 テキスト

- 1) 系統看護学講座 母性看護学 [2] 母性看護学各論 (医学書院)
- 2) カラー写真で学ぶ新生児の観察と看護技術 (医歯薬出版)
- 3) 写真でわかる母性看護技術 アドバンス (インターメディカ)